



里の畜舎へ

雪が積もる12月頃になると、草原に放牧されていた牛たちは、里の畜舎に移動します。そこで来年の春までの間暮らします。これは、阿蘇の伝統的な飼育形態で「夏山冬里」といわれます。最近では、飼育作業の軽減、生産コスト低減のために冬場も放牧する「周年放牧」もみられるようになりました。

写真 大滝典雄

12月  
2008

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23 天皇誕生日	24	25	26	27
28	29	30	31			



畜舎で干し草をほおぼるあか牛



草原環境学習用の教材づくり

阿蘇の子供たちでも草原に行く機会が減り、草原がどうやって維持されているのか知らない子供たちも大勢います。草原を守るためには、その維持のしくみを知ることが大切です。そこで環境省では、子どもたちが草原について学ぶ際に活用できる環境学習用の教材として、カレンダーやワークブックなどを作り、小中学校に配布しています。



雪の草小積み

秋に刈り取った草を束ねて小高く積み上げ保存・乾燥させる草小積みは、阿蘇の風物詩の一つです。以前は草原の至るところにありましたが、最近では機械化が進み、ロール状に束ねた「干し草ロール」にして保存することが増え、草小積みは少なくなりました。

1月

2009

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1 元旦	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 成人の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

グリーンワーカー事業（阿蘇草原景観保全事業）

環境省では、古くから阿蘇の風物詩として知られる草小積みを、12月初旬から1月末まで、ミルクロードや登山道路沿いなど、観光客の目に触れやすい場所に設置しています。風情ある景観を保全しながら、草原のわざを将来に伝える役割をもっています。



刈った草を保存するための草小積みづくり

